

国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部、理学部、医学部 (医学科) (前期)

1/6

<総括>

出題数	現代文 1題・古文 1題・漢文 1題	試験時間 105分 理学部のみ 45分
-----	--------------------	------------------------

社会科学を歴史的に捉え、それを修正していこうとする立場から書かれた文章からの出題。本文が昨年に比べ700字程度減少した。記述問題は4問となり、昨年より1問増加した。昨年は出題されなかった抜き出し問題が3問出題された。選択問題は今年も出題された。記述問題は制限字数内でまとめづらいものがあった。全体としての難易度は昨年並みであった。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	『歴史にこだわる社会学』(犬飼裕一)
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量(減少)・やや減少・変化なし・やや増加・増加 昨年は4304字、今年は3636字で668字減少
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし)・やや難化・難化

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	評論	問一	漢字の読み書き	標準	特に難しいものはない。
		問二(1)	抜き出し	易	A・Bともに字数指定(九字)をふまえて、傍線部直後の内容に注目すれば、解答は決定しやすい。
		問二(2)	記述	標準	A・Bともに「社会」と「権力」の両方について説明する必要があるが、比喩の言い換えなど表現の工夫が求められる。
		問三(1)	記述	やや難	「社会科学が持っている両義性、二面性」の一方の説明は容易だが、もう一方については本文に詳しい内容が書かれておらず、説明が困難である。
		問三(2)	抜き出し	易	設問で問われていることが次の段落で明確に述べられているので、解答は決定しやすい。
		問四	記述	やや難	理由をどこまで説明する必要があるのかがわかりづらいため、指定された字数にまとめるのが難しい。
		問五	客観	易	正解は選びやすい。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## 国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部、理学部、医学部 (医学科) (前期)

2/6

### <学習対策>

問題集や過去問を利用して、評論に触れて読解力を養うとともに、記述問題の練習を十分に積んでおくこと。  
漢字の読み書きについても対策を怠らないようにしておくこと。

国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部、医学部 (医学科) (前期) 3/6

<総括>

出題数	現代文 1題・古文 1題・漢文 1題	試験時間 105 分
-----	--------------------	------------

平安時代の女流歌人和泉式部の日記『和泉式部日記』からの出題であった。文章量は昨年と比べて微増だが、内容はかなり難しかった。設問は、和歌二首を含む現代語訳4問と説明問題2問は例年通りであるが、動詞を活用させる問題は例年の傾向とは異なるものであった。頻出の和歌は、昨年と同様、現代語訳の問題として出題されたが、二首の和歌が贈答歌であることを踏まえてわかりやすく訳出する必要がある。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	『和泉式部日記』(和泉式部)
頻出度合 ・的中等	頻出
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 昨年は781字、今年は799字で18字増加。
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	日記	問一	記述	易	動詞「来」を活用させ、ひらがなで答える。
		問二	記述	やや難	現代語訳の設問が2問。30字程度の箇所を「適宜言葉を補って、わかりやすく」現代語訳する。アは助動詞「な」「む」、イは「いかで〜にしがな」に気をつける。また、人物の補いのほか、状況などを補って具体的にわかりやすくする必要がある。
		問三	記述	やや難	説明問題が2問。「誰のどのような心情であるか、わかりやすく」説明をする。Aの和泉式部の心情とBの帥宮の心情を、それぞれの傍線部の訳と直前部の内容を踏まえて説明する。
		問四	記述	標準	和歌の現代語訳の設問が2問。「適宜言葉を補って、わかりやすく」現代語訳する。Iは終助詞「なむ」の訳出と「月の影」の比喻内容の具体化がポイント。IIは反語「やは」と逆接用法の「こそ」の訳出に気をつける。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

# 国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部、医学部 (医学科) (前期) 4 / 6

## <学習対策>

重要古語・文法の知識を基礎とした現代語訳の力をつけることが、大切である。その際、逐語訳だけでなく、主体の補いなどに注意を払い、わかりやすい現代語訳になるよう意識することが必要である。また、和歌に関する問題は頻出である。現代語訳、心情や具体的内容を把握する練習に加えて、和歌修辞などの知識も身につけておきたい。記述量の多い要約・説明問題については、実際に書いてまとめる練習を積んでおこう。文法や文学史も出題されることがあるので、対策を怠らないこと。過去の問題を解いて名古屋大学の出題形式に慣れておくとよい。

# 国語(現代文・古文・漢文)

## 名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部、医学部 (医学科) (前期) 5/6

### <総括>

出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間	105分
-----	-----------------	------	------

本文は周密『齊東野語』からの出題で、「雲」は手でつかんだり人に贈ったりすることができるのかということについて論じた文章である。本文の文字数は222字で昨年より大幅に減少した。設問は、語の読み・現代語訳・内容説明・書き下し・150字の内容説明(要約問題)と例年通りで、設問数も昨年と同じく7問である。150字の要約問題を含めて説明問題が4問もあるので、ポイントを絞って要領よく解答をまとめる工夫が必要である。

### <本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『齊東野語』巻七「贈雲貢雲」(南宋・周密)
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量 <b>減少</b> ・やや減少・変化なし・やや増加・増加 昨年は288字、今年は222字で66字減少
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・ <b>やや難化</b> ・難化)

### <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	随筆	問一	記述	標準	語の読みの問題。「固」「竟」「須臾」は基本的な語。解釈の問題。各語を適切な現代語に置き換えて訳出することが求められる。 内容説明の問題。「飛入吾車」は「道逢南山雲」から続く「坡翁」の「攬雲篇」の一節であることを踏まえる。 内容説明の問題。直前の「令近山多造～括囊以献」の内容から、「雲」を集めて天子に献上(=「貢」)したことを読み取ればよい。 内容説明の問題。比況の「如(ごとし)」に着目。「每車駕所臨～滃然充塞」のさまを「千巖万壑間」に「在る」ようだと喩えているのである。 書き下し文の問題。累加形「不特～」(特だに～のみならず)と「持贈」の読みがポイント。 内容説明の問題(150字の要約)。「雲」を「持」「贈」「貢」ということについて、紹介されている漢詩やエピソードを踏まえて、本文の順序通りにまとめればよいが、「一笑」から筆者がどう考えているかを判断するのが難しい。
		問二	記述	やや易	
		問三	記述	やや易	
		問四	記述	やや難	
		問五	記述	やや難	
		問六	記述	やや難	
		問七	記述	やや難	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## 国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部、医学部 (医学科) (前期) 6/6

### <学習対策>

重要語や句形を問う問題は必ず出題されるので、これらの基礎知識に習熟すること。300字程度の長文が出ることも多いので、日頃から長文を数多く読むように心掛けたい。説明問題や現代語訳の問題は、二次対策用の問題集や過去問などで訓練しておくのがよい。150字の要約問題の対策として、漢文を読んで要約する練習を心掛けるとよいだろう。